



(損保版)

第1~4月曜日発行
発行所 新日本保険新聞社
大阪市西区鞆本町1丁目5-15
(郵便番号550-0004)
電話 (06) 6225-0550 (代表)
FAX (06) 6225-0551 (専用)
購読料 1か月2160円
(消費税、送料込み)

©新日本保険新聞社 2017

Shinnihon Insurance Web
www.shinnihon-ins.co.jp
購読者専用バックナンバー
閲覧パスワード
Caesar
2017年12月4日 AMまで
※偶数月の第一月曜日正午ごとに変更

お客様と共に歩む代理店のあり方

日本代協阪神ブロックコンベンション

日本代協阪神ブロック協議会(大阪代協、兵庫代協、和歌山県代協)は10月4日午後1時40分から、大阪市中央区の大坂損害会館9階講堂で阪神ブロックコンベンションを開催した。テーマは「お客様と共に歩む代理店のあり方」である。第一部では新たな損害保険トータルプランナー資格者を祝う式典、第二部では記念講演が行われ、3



中村会長

代協、損保協会などから96名が参加した。開会にあたり、中村利雄阪神ブロック協議会会長が「我々代理店が生きていくには顧客本位の業務運営を徹底していくしかありません。いかにお客様にニーズを感じ取り対応していくかが重要なポイントです。保険募集人の資質の向上が求められている今こそ、損害保険トータルプランナーの価値



記念講演の様子

今後の損害保険業界に期待されること、②改正保険業法の進行状況、③金融庁の「顧客本位の業務運営」の3点について話をした。その中で「PDCAサイクルを回しながら、顧客が必要とする保険を確実に届けているかチェックし、顧客のニーズを把握し、ニーズに合った商品を顧客に納得して加入してもらうというプロセスを確立すること

が改正保険業法の本来の目的です」と述べた。続いて、損保協会近畿支部・奥田尚也委員長が「損保協会は今年5月に創立100周年を迎えました。全国の代理店の支えがあって成長してきました。次の100年の展望では社会とともに成長していくには、お客様本位の業務運営を追求していくことが一層重要になります。そういう観点から損害保険トータルプランナーを増やすことに取り組むよう力を入れていきます。損害保険の信頼を高めるため、損害保険トータルプランナーの魅力やブランド、認知度の向上に努めていきます」と挨拶。

このあと、損害保険トータルプランナーの資格を取得した会員のうち、当日出席した会員(大阪代協36名、兵庫県代協5名、和歌山県代協5名)にそれぞれが所属する代協会長(大阪代協は副会長)から記念品が贈呈された。

記念講演では「お客様にニーズを掘り起こす。元気経営の『ピミツ』はこれだ!」と題し、有限会社産業情報新聞社代表取締役(日本一明るい経済新聞編集長)・竹原信夫氏が講演。同氏は年間500社の中小企業を取材、テレビやラジオにも出演している。

同氏は、「中小企業は厳しい会社ばかりではない。成長し元気ながんばっている会社もある。元気な会社は厳しい環境の中で生き残るための努力・工夫をしている」と前向きな企業を支援する。変化の中で工夫していくには「AIよりトシチ力が大事」として具体例を示した。例えば、社内で大きな声で挨拶、朝礼では運がよかったことを話すことで会社に元気が出る。よそとは違う戦い方を求めたために、答えをすぐに出るのではなく、「何でやねん」といっても問題意識を持つことがビジネスにつながるという。元気な会社・人の共通点をあいうえおで示し、明るい意識を強く持つ、運がいい、縁を大切にすること、大きな夢を持つことだと締めくくった。